

【志の式に】

京都市立下京中学校

校長 安居 昌行

「志は高く、学びは深く、出会いは広く」

皆さんも様々な形で長い夏休みが終わり、新たなステージ「下京中では“姿”と呼んでいる」が始まりました。この間、猛暑、ゲリラ豪雨などが各地を襲いました。犠牲者になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、早く日常の生活を取り戻せることを祈っています。一方、この夏休みの間に生徒の皆さんは地域では様々な祭りや活動に参加するとともに、学習や部活動、生徒会活動などに一所懸命がんばっている姿も見せてくれました。

さて、夏休み前の志「風の式」で「3週間続ければ一生が変わる」という話をしました。強い意志をもって「新しい習慣」を創ることができましたか。できた人は新たなステージもそのままがんばりましょう。できなかった人はこれからが勝負です。気持ちを切り替えて、様々な活動が予定されているこのステージで全力を尽くしましょう。その際、このステージの名称である“姿”ということも考えながら行動してほしいと思います。“姿”というものを考えるとき「外見で人を判断するのではなく、その人の内面をしっかりと捉える」ことの大切さを思います。と同時に、姿には内面からにじみ出てくるものもあると思います。『人は見た目が9割』（竹内一郎著）という本には、心理学者のマレービアン博士の次のような研究に触れています。「(人が他人から受け取る情報の割合は)見た目・身だしなみ、仕草・表情が55%。声の質、大きさ、テンポが38%。話す言葉の内容が7%(である)」と。“姿”を考える一つのヒントになると思います。また、この本には「間違い・間に合う・間が悪い・・・など日本語には“間”の大切さを教える言葉がたくさんある」と書いてあります。下京中で取り組んでいる『三つの「間～空間・時間・仲間」』にも通じる内容だと思います。

ところで、このステージから「校是“志きらめく”」について提案をします。副題を「志、風の式」でも述べた「～志は高く、学びは深く、出会いは広く～」としていきたいと思います。新たなステージの学習や活動の中で、じっくりと学び、たくさんの人や本などとの出会いを通して、自分を磨き、志を高くもち、一人一人が学校、家庭、地域できらめく姿をみせてほしいと思います。



〈はねるイルカ 京都水族館にて〉